

今日のトピック 底堅く推移してきた金価格の動向

米国の金融政策が当面の焦点

ポイント1 Brexit選択後も底堅い

ドル安の進行が下支え

- 金価格は2013年以降の下落局面から今年に入り反発に転じています。8月25日の金価格は、年初来で約25%の上昇となっています。
- 米国の利上げ期待の後退を受けて、ドル安が進行したこと、英国のEU（欧州連合）からの離脱選択により金融市場が不安定となる局面があったことなどから、金の安全資産としての見直し機運が高まったためと思われます。世界的な低金利の環境下、ETFによる金への投資需要が増加していることや、金の新規鉱山開発計画が乏しく、価格上昇にもかかわらず、生産が増えないという需給面も背景としてあげられます。

ポイント2 円ベースの金価格は横ばい

ドルベースの上昇を円高が相殺

- ただし、円ベースの金価格は、概ねボックス圏での推移となっており、年初からの上昇率は約4%にとどまっています。ドルベースでの金価格の上昇を、円高の進行が相殺しているためです。これは、外国為替市場で、円が金と同様に安全資産として選好されているためです。

今後の展開

米国の金融政策が当面の金価格のカギ

- 金価格には、米ドルとの逆相関関係が高いという特性があります。すなわち、ドルが強ければ金は弱く、ドルが弱ければ金が強いの、という関係です。今後の金価格は、米国の長期金利や米ドルの動き、したがって米国の金融政策や地政学的リスクなどの影響を受けると考えられます。
- このため25-27日に開催されている米国のカンザスシティ地区連銀主催の経済シンポジウムでのイエレンFRB議長の講演（26日に予定）が注目されます。仮に講演内容が、米国の利上げ観測の早期化ならばドルは買われ、金価格は下落へ、逆に米国の利上げ観測が後退するようなら、ドルは売られ、金価格は上昇する可能性が高いと見られます。

(ドル/トロイオンス) 【金価格とドル円レート】



(注) データは2006年1月～2016年8月（月次）。2016年8月は25日のデータ。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

(千円/トロイオンス) 【円ベースの金価格】



(注) データは2006年1月～2016年8月（月次）。2016年8月は25日のデータ。ドル建て金価格を月末の為替レートにて円価格に換算。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ここも チェック!

2016年8月22日 米国の株式市場（2016年8月）堅調な推移が続く米国株式市場

2016年7月28日 米国の金融政策（2016年7月）短期的なリスクは後退、政策金利は据え置き

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。